

第 2 章

氣 象

第 2 章 気 象

概況（平成 19 年）

1 月

冬型の気圧配置は長続きせず、晴れる日が多くなった。平均気温はかなり高くなり、1月の平均気温は統計開始以来第2位の高さとなった。

2 月

冬型の気圧配置は長続きせず、晴れる日が多くなった。2月の平均気温はかなり高く、統計開始以来第1位となった。

3 月

上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。中旬は、冬型の気圧配置や寒気の影響を受けて、寒の戻りがあった。このため、気温の変動は大きくなったが、月平均気温は平年より高くなった。

4 月

低気圧や前線が頻繁に通過し、天気は周期的に変化したが、発達した低気圧や前線の通過は少なく、降水量はかなり少なくなった。気温、日照時間は平年並だった。

5 月

天気は周期的に変化した。高気圧に覆われて晴れる日が多く、日照時間は多くなった。また、上旬を中心に、日本海を通過する低気圧に向かって暖気が入りやすく、気温は高くなった。天気のくずれは寒気を伴った気圧の谷によるものが中心だったが、南からの暖かく湿った空気の影響を受け、まとまった降水を観測する日もあり、降水量は多くなった。

6 月

前半は天気が周期的に変化し、後半は、梅雨前線の影響でまとまった雨となる日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日も多くなった。気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多くなった。

* 近畿地方は14日頃（平年6月6日頃、昨年6月8日頃）梅雨入りしたと見られる。

7 月

下旬のはじめまでは、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。特に中旬は梅雨前線や台風第4号の影響でまとまった雨となった。気温は低く、降水量は多く、日照時間はかなり少なくなった。

* 近畿地方は24日頃（平年7月19日頃、昨年7月27日頃）梅雨明けしたと見られる。

8 月

期間を通じて勢力の強い太平洋高気圧に覆われる日が多く、晴れて暑い日が続いた。期間の終わりには上空の寒気や前線の影響で、まとまった雨となる日があった。気温はかなり高く、日照時間はかなり多くなった。

9 月

中旬を中心に勢力の強い太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多くなった。気温はかなり高く、9月の平均気温としては1883年の統計開始以来1位タイの高い記録となった。降水量はかなり少なく、日照時間はかなり多くなった。

10月

天気は数日の周期で変わった。また、寒気の影響を受けにくく、高気圧に覆われ晴れて暖かい日が多かったため、気温は高くなった。降水量は少なくなった。

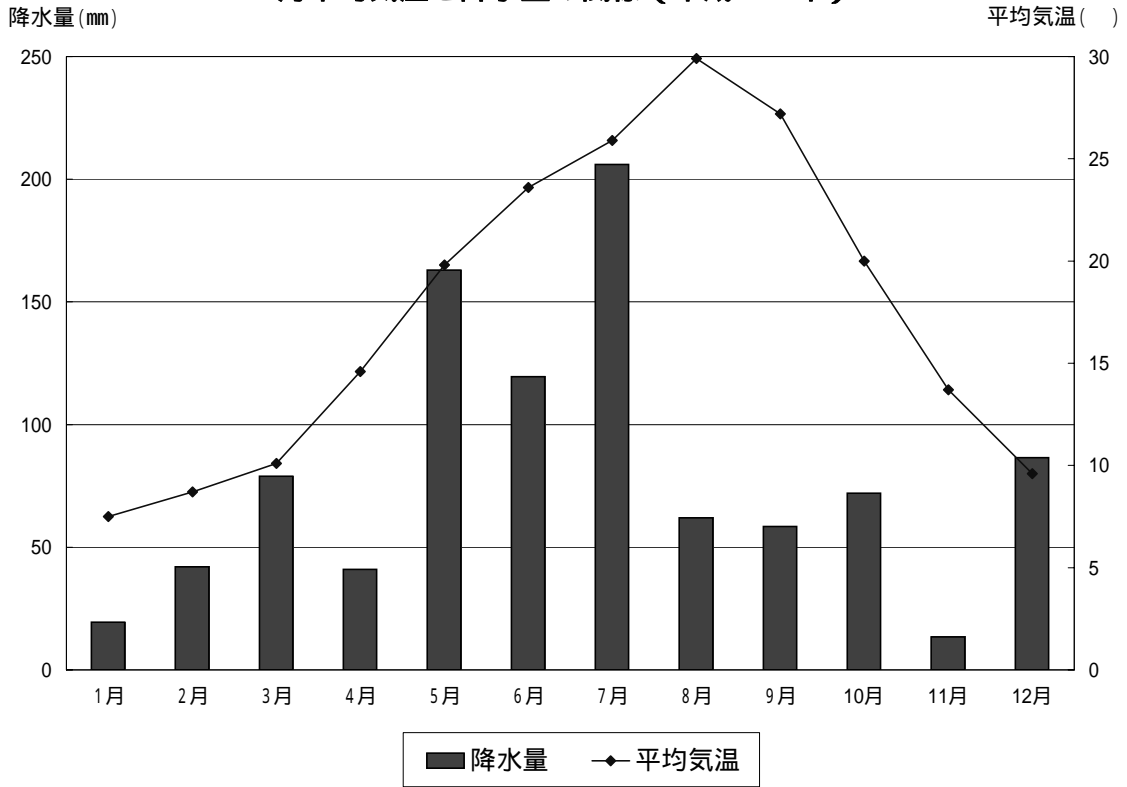
11月

上旬は数日の周期で天気が変わり、気温は高くなった。その後は高気圧に覆われて晴れる日が多くなったが、中旬後半から下旬前半にかけては、寒気の影響で気温が低くなった。また、低気圧や前線の影響は小さく、降水量はかなり少なくなった。

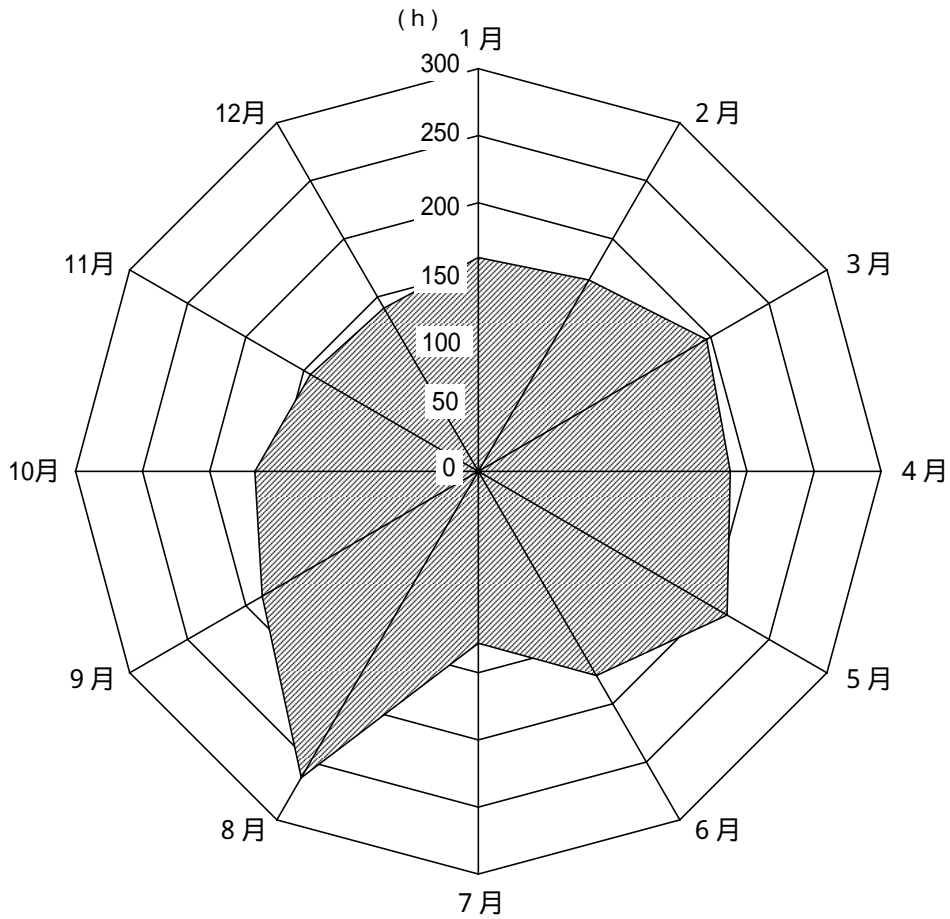
12月

冬型の気圧配置となる日は少なくなった。中旬以降は、気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多く、下旬にはまとまった雨となる日があった。気温はかなり高く、降水量もかなり多く、日照時間は少なくなった。

月平均気温と降水量の関係（平成19年）



月別日照時間（平成19年）



第 1 表 大 阪 管 区 気 象 台 の 観 測 状 況

位 置	経 緯 度		海面上高	創 立 年 月 日	主 要 器 材 の 位 置	
	東 経	北 緯				
大阪市中央区大手前4-1-76 平成5年2月1日に現在の位置に移転。	度・分	度・分	m		気 圧 計 (海面上)	m 83.1
	135.31	34.41	23.0	明治15.7.1	温 度 計 (地上)	1.5
				(大阪測候所)	風 向 風 速 計 (地上)	22.9
					雨 量 計 (地上)	0.6

第 2 表 大 阪 管 区 気 象 台 の 統 計 値 1 (主 な 要 素 の 統 計 値)

ア) 全天雲に被われた場合を10とし、雲のない状態を0とした10分比である。
 イ) 「有感地震」とは「震度1以上を観測した地震」のことである。
 ウ) 極値、有感地震回数に平年値はない。
 a) 「)」は準正常値：統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容する範囲内である値
 b) 「]」は資料不足値：統計値を求める対象となる資料が許容する範囲を超えて欠けている値。資料不足値は、正常値及び準正常値よりも品質が低下するが、統計方法によっては、有効活用することができる。利用に際しては十分留意すること。

年 月	平均気圧 (海面)	気 温			平均 湿度	ア) 平均 雲量	風 速			降 水 量		日照時間 総 数	イ) 有 感 地 震 回
		平均	最 高 値	最 低 値			平均	最 大 瞬 間	風 向	総 量	最 大 時 量		
平成15年	hPa				%		m/s			mm	時間		
1 5	1 015.0	16.9	35.5	2.7	66	7.1	2.5	25.7	南南西	1 528.5	31.5	1 822.6	2
1 6	1 015.3	17.9	36.4	2.2	63	6.5	2.6	b)31.7]	南南西	1 594.5	40.0	2 243.8	7
1 7	1 014.4	17.0	37.0	1.2	62	6.9	2.6	23.5	南南西	909.0	36.0	2 098.3	3
1 8	1 014.9	17.0	37.9	1.9	64	7.0	2.4	25.8	北西	1 399.5	19.5	1 859.9	1
平成19年													
1 月	1 022.3	7.5	14.0	1.6	59	6.6	2.2	26.9	西南西	19.5	2.5	159.1	0
2	1 018.9	8.7	18.3	0.4	56	5.3	2.5	20.1	南西	42.0	5.0	164.5	0
3	1 017.7	10.1	22.2	2.0	54	5.8	2.5	21.6	南	79.0	8.5	196.1	1
4	1 015.6	14.6	26.3	5.0	56	7.2	2.4	21.1	南西	41.0	5.0	187.5	1
5	1 009.2	19.8	30.4	10.6	59	6.6	2.7	21.2	西	163.0	11.5	213.8	0
6	1 009.5	23.6	32.5	16.6	67	8.1	2.6	14.7	西	119.5	12.0	175.6	0
7	1 005.2	25.9	34.4	19.8	72	8.0	a) 2.3)	17.4	南南西	206.0	28.0	127.9	2
8	1 011.4	29.9	38.3	22.7	63	6.0	2.7	19.7	南南西	62.0	22.5	263.3	0
9	1 011.9	27.2	35.1	17.2	66	7.2	2.4	14.7	西北西	58.5	15.0	185.9	0
10	1 017.4	20.0	29.4	10.0	63	6.7	2.0	14.3	西南西	72.0	9.0	166.4	0
11	1 019.7	13.7	22.0	4.5	60	6.1	2.1	16.3	西南西	13.5	2.0	144.1	1
12	1 018.5	9.6	15.8	3.2	61	6.1	2.6	17.4	西南西	86.5	5.0	140.3	0
ウ) 平 年	1 015.1	16.5	-	-	64	6.5	2.6	-	-	1 306.1	-	1 967.1	-

第 3 表 大阪管区気象台の統計値 2 (階級別日数・現象日数)

区 分	平成16年 総 数	平成17年 総 数	平成18年 総 数	平 成 1 9 年												
				総 数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量 0.5mm	102	105	121	109	7	7	9	13	11	11	18	5	9	8	2	9
降水量 1.0mm	95	92	112	98	5	6	9	11	10	9	17	5	7	8	2	9
降水量 10.0mm	45	34	47	28	0	1	3	0	4	5	6	3	2	2	0	2
降水量 30.0mm	14	6	10	9	0	0	0	0	2	1	3	1	0	1	0	1
雪 日 数	15	18	19	5	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1
雷 日 数	18	18	19	19	1	0	2	1	3	2	3	5	1	1	0	0
霧 日 数	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
日 最 大 風 速 10m/s以上	14	5	9	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雲 量 < 1.5	27	14	20	22	0	2	3	1	1	0	2	4	1	2	4	2
雲 量 8.5	122	126	151	121	10	3	5	13	9	19	16	9	9	11	9	8
不 照 日 数	37	33	58	37	3	2	4	2	4	5	4	0	2	3	4	4

資 料 気象庁大阪管区気象台

第 4 表 地域気象観測所の平均気温

a) 「」は準正常値：統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容する範囲内である値。
 b) 「」は資料不足値：統計値を求める対象となる資料が許容する範囲を超えて欠けている値。資料不足値は、正常値及び準正常値よりも品質が低下するが、統計方法によっては、有効活用することができる。利用に際しては十分留意すること。

観 測 所	平成16年 平 均	平成17年 平 均	平成18年 平 均	平 成 1 9 年												
				平 均	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
能 勢	14.5	13.5	13.7	13.9	3.2	5.0	6.3	11.1	16.4	20.9	23.2	26.1	24.0	16.3	9.4	4.9
枚 方	17.0	16.1	16.2	16.5	6.1	7.6	8.9	13.7	19.0	23.1	25.2	29.2	26.2	18.9	12.4	7.9
豊 中	17.2	16.3	16.3	16.8	6.3	7.7	9.1	13.9	19.2	23.5	25.7	29.4	27.0	19.3	12.6	8.3
大 阪	17.9	17.0	17.0	17.6	7.5	8.7	10.1	14.6	19.8	23.6	25.9	29.9	27.2	20.0	13.7	9.6
生 駒 山	12.8	11.7	11.8	12.3	2.3	3.7	5.1	9.5	14.5	18.5	20.8	24.2	21.6	14.6	8.5	4.2
八 尾	17.6	16.8	16.9	b)18.0]	7.0	b)8.2]	a)9.8)	14.2	19.3	23.6	a)26.0)	29.5	26.9	19.4	13.1	8.9
堺	17.0	16.3	16.4	16.9	6.7	7.9	9.5	14.1	18.9	23.2	25.4	29.2	26.8	19.0	12.7	8.9
関 空 島	17.6	16.8	16.7	17.3	7.9	8.5	9.8	13.9	18.8	22.7	25.2	28.5	26.9	20.5	14.5	10.3
熊 取	16.6	15.8	15.8	16.4	6.3	7.4	9.2	13.6	18.7	22.6	25.0	28.3	25.8	18.7	12.6	8.7

資 料 気象庁大阪管区気象台

第 5 表 地域気象観測所の降水量

注：第 5 表の大阪の値は地域気象観測統計値であり、第 2 表の地上気象観測統計値とは若干異なる。
 a) 「」は準正常値：統計値を求める対象となる資料の一部が欠けているが、その数が許容する範囲内である値。
 b) 「」は資料不足値：統計値を求める対象となる資料が許容する範囲を超えて欠けている値。資料不足値は、正常値及び準正常値よりも品質が低下するが、統計方法によっては、有効活用することができる。利用に際しては十分留意すること。

観 測 所	平成16年 総 量	平成17年 総 量	平成18年 総 量	平 成 1 9 年												
				総 量	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
能 勢	1 728	1 004	1 649	1 134	19	64	86	25	157	169	241	78	87	100	16	92
箕 面	1 558	1 016	1 611	1 191	22	60	107	33	168	159	248	100	98	88	19	89
枚 方	1 494	786	1 455	1 141	19	55	72	36	166	168	206	91	119	98	15	96
豊 中	1 483	780	1 493	1 011	18	47	102	39	156	121	173	73	51	130	13	88
大 阪	1 594	907	1 401	963	19	42	79	41	163	120	206	62	59	71	14	87
生 駒 山	1 742	1 109	1 550	1 272	23	58	84	57	194	143	253	94	119	113	22	112
八 尾	1 453	839	1 341	b)946]	21	b)44]	46	38	148	101	a)199)	71	72	98	16	92
堺	1 407	882	1 339	1 053	18	51	52	40	168	111	232	84	56	132	20	89
関 空 島	1 390	729	1 117	863	12	42	40	37	142	93	219	44	49	92	17	76
河 内 長 野	1 648	1 174	1 555	1 127	21	67	56	66	157	111	265	107	78	83	26	90
熊 取	1 540	952	1 492	905	13	39	55	53	147	82	252	73	51	a)42)	21	77

資 料 気象庁大阪管区気象台

